

八大傳見立句合

催主

喜撰窟本阿

喜撰窟本阿





智東一

信弄花齋

孝寒菊

悌村雄

忠弄花齋

仁村雄

禮桂風

義櫻夢

底書
芳玉廿画
芳玉

護
岳

桂石后貞也

秀逸

柳の如

廉城

桂花
風中玉

十印

極愛一物弄苑柳希九

舟のようふあ^{十二印}たりや夏の月
落ふみさく花^{三印}さあ川さ日中ふ

目又連 松^三九
かん栗

福芝齋判 秀逸

花ハ多うそふ定まる山路の
中しとくうきまてきく灯し
うつそふら藤のそくか
をうら山見る二百十日の
おのわの花とらふとくけけ
束板や定家うらう日のあ

武川^{シマ} 一 鼓
桂月連 一 葉
全 貞
赤^ニ 田 富 仙
本町 雲 我

落 星合やあのかとすくや
志間の江や月ふささるる
のう

梅 青
江 谷

田桂園判 再考十印

その甲ふ明るさ水や枯屋を
吹さらる転売さちややの月
ある板やきらく果のぬふ

桂月連 再^ニ花
す^ニ 全
す^ニ 女
三

ねくれ啼ふふくくふまう
踏つてあるや赤赤の拾う
いらはくやあう一毫の舌さ
くまふく一濁さのあや
のれいさうあうさてあり
麦^ニ 荷や日めかてぬさる
ほりくくとるの浮出さ

桂月連 貞
月桂連 護
余川 掃
古川 麻^ハ城
鶴^ハ 房

田桂一号 月白堂判 七印

山吹や六段のあらへ奥申の
赤^ニ 袴の落さうはさるゆふ
あささうき通り赤赤や大
ツ、テンふさる橋渡の
内あうさ藤さのさふ一
さくわさるるさふさや

桂月連 風
柳^ニ 社 松
桂 舟
巨 文
貞

十五 草の戸小憚の勤や金
をよせのお方ほき端平

桂月連 桂
貞 史

^{十五}梅の香や山の中一ろの能くや

桂風

春遊齋花交判 十印

^{十七}あきくさゆきめく拍子あき
^{十五}りくれて森ふ味ーむーのそ
吹さらきぬのなつりやちきき
^{十五}大極子くぬて花見の疾りけり

桂月連
柳句社

桂村
桂公
桂三

水音月やるの神楽の能くやー
浪さくくわんくをさる一筆くれ
お中樂や管ハ衣屋の作とと

清桂
企負之
茶阿

花むーやんと静まる歌の月
^{歌をえやー}

戲墨雨人

古師の山をえやるをけふの月

月堂老人